

令和2年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等：生物資源学研究科

事業担当者の職・氏名：教授・中島千晴

内線電話番号：9638

電子メール：chiharu@bio.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

海外同窓会とのオンラインシンポジウム

海外同窓会のオンラインシンポジウムを通じた大学院生物資源学研究科への誘導

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

■その他

海外留学生の新規獲得

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要（簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください）

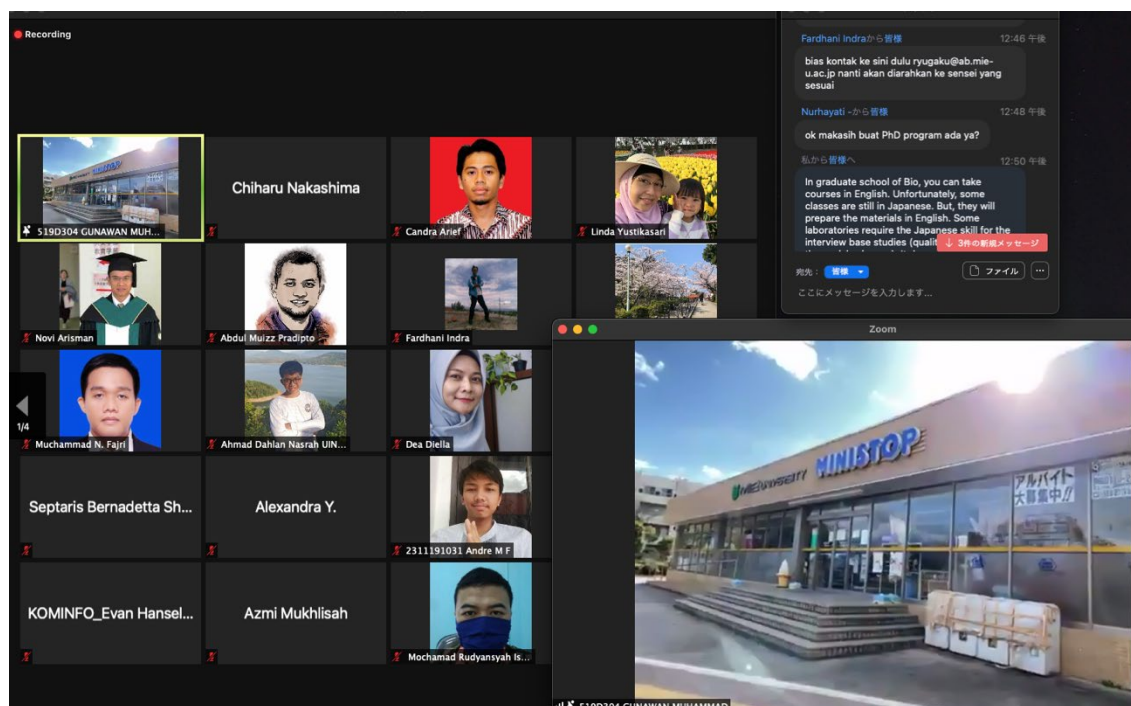
渡航による生物資源学研究科紹介が不可能になった状況にある。その代替事業として、三重大学へ留学し、帰国後交流校の教員となった卒業生を中心に結成された在インドネシア三重大学同窓会と三重大学への留学を促す交流会を企画した。

(2) 事業の背景・これまでの実績

コロナウイルス感染症拡大により、様々な交流が途絶えた状況にある。特にダブルディグリープログラムは卒業後の学生が、博士後期課程へ入学し、更に卒業後はインドネシアの協定校の教員になったり、日本語を活かした職業に就いている。その卒業生により結成された在インドネシア三重大学同窓会と、本学、博士後期課程の留学生でもある特任教員(教育担当)が三重大学の留学を促進するオンラインミーティングの開催を企画し、これを支援することとした。

(3) 事業実施結果

12月19日及び12月20日にのべ140名のインドネシアからの参加を得て、吉松副学長、工学研究科中村教授、生物資源学研究科中島教授が三重大学の大学院進学システムと主要な研究室紹介を実施した。バーチャル三重県ツアー、学内ツアーや、卒業生による留学生の生活紹介、研究成果の公開など盛大に行われた。



(4) 事業の意義

同窓生および新規に雇用された特任教員(教育担当)による自発的企画であり、それを三重大学の教員がサポートすることで、成立した。

(5) 事業の発展性

その後、生物資源学研究科には7名の留学希望者による指導教員マッチング依頼があるなど、今後に期待させる活動となった。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

中期目標【12】:(大学と地域のグローバル化推進)世界で活躍できるグローバル人材を育成し、国際教育・国際共同研究を充実させるために、地域社会や世界各国の大学との交流活動を活発化させ、海外の大学等との学生と研究者の相互交流を増加させる。

(7) その他